

首都圏西部スマートQOL (Quality of Life) 技術開発地域

首都圏西部地域の産業特性を生かした「産学官金の知の統合」によるSQOL技術の創出・事業化

参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…首都圏産業活性化協会
 学…首都大学東京、電気通信大学、
 東京農工大学、埼玉大学、青山学院大学、
 芝浦工業大学、東洋大学
 官…埼玉県、東京都、さいたま市、相模原市、
 東京都立産業技術研究センター
 金…西武信用金庫

地域イノベーション戦略

首都圏西部地域に集積するイノベーション支援型産業、先端技術を牽引する大学・研究機関及び関係機関による「産学官金の知の統合」を行い、グリーンイノベーション・ライフイノベーションを促進します。個々の状況、多様な個別ニーズにも適合した暮らしの質を向上させるSQOL技術を次々に創出することにより、都市課題の解決と持続的に発展可能な活力ある地域づくりに貢献し、さらにグローバル市場へSQOL技術の普及・拡大を推進します。



プロジェクトディレクター
松本 幸造

略歴：富士電機を経て、平成20年より首都圏産業活性化協会研究開発チーム長、平成28年、事務局長代行就任。

首都圏西部地域が、世界有数のライフイノベーション・グリーンイノベーションの新産業創出拠点となることを目標に、多数の優秀な中小企業、理工系大学が集積する特性を活かしつつ、産学官金の人的ネットワークを活用し、産学・産産連携による新事業創出活動を支援しています。今後は、連携案件の着実な事業化や、広域的な連携、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発に繋げるための支援活動を進めていきます。

事業の内容

【事業概要】

1. 大学等の知のネットワークの構築

- (1)首都圏西部イノベーション推進協議会を運営し、事業の管理や新規事業企画、内部・外部関係機関との連絡調整の役割を担うことにより、SQOL技術の創出促進と事業化実現を推進します。
- (2)専属の地域連携コーディネータを配置して、大学等の技術シーズの調査や地域企業のニーズ調査とそのマッチング等の実施を通じて、本地域の「産学官金の知の統合」を進めています。
- (3)産業支援プログラムを活用してSQOL技術の事業化を目指すとともに、保有するアジア、欧米地域の海外ネットワークと連携して、SQOL技術をグローバル市場へ発信し、その普及・拡大を推進します。
- (4)過去5年間に構築した以下のスキームを活用・強化することで地域に裨益できるイノベーションシステムの構築を継続して進めています。
 - ・大学と大企業・中小企業等とのマッチング
 - ・海外市場との連携コーディネートプロジェクトの実施
 - ・重点プロジェクトWGの実施
 - ・様々な競争的資金の活用と融合
 - ・協議会(首都圏西部イノベーション協議会)の実施

【主な成果】

1. 研究者の集積

先端技術に知見があり戦略技術を生み出すために最適な研究者を海外より招聘し、SQOL技術の創出を目指しました。

- (1)ユーザモデルに基づくBTO(Built to Order)型の見守りシステムの開発(首都大学東京)
 スマートロボットを活用し、高齢者の安全安心な生活を支援する見守りシステムの開発を進めています。
- (2)超音波センサーの高性能化と超音波診断画像の研究(電気通信大学)
 開発した非接触超音波トランスデューサを今後は医療分野に応用するため、継続して開発を進めています。



2. 人材育成プログラムの開発及び実施

- (1)e-learning教材の開発と運用(電気通信大学)
- (2)ライフイノベーションセミナー(埼玉大学)
- (3)福祉機器開発研修プログラム(芝浦工業大学)

3. 大学等の知のネットワークの構築(首都圏産業活性化協会)

連携案件のマッチングを促進し、重点プログラム、SQOL技術創出に取り組むとともに、産学の連携により、各種競争的資金を獲得しSQOL技術、製品の試作開発を進めました。

大学は薄型電磁石の開発及び磁気治療器の脳機能に関する評価、企業は眼精疲労用ウェアラブル電気磁気治療器の開発を担当し、超小型コイルによる眼精疲労解消用ウェアラブル電気磁気治療器の新規開発を行いました。



4. 研究設備の共用化

- (1)アンビエント・モビリティ・インターフェイス研究開発拠点(埼玉大学)
- (2)バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター(東洋大学)

